

# 道路事業における今後の事業評価の あり方について

# 現行の事業評価手法に対する意見

---

## ○社会資本整備審議会 道路分科会 事業評価部会 (H22. 8. 23)

- ◆ 3便益だけでなく、その他の効果も勘案して評価すべきである。
- ◆ B/Cという効率性の面だけでなく、安全や安心の観点(津波被害、救急医療など)も別途指標化して評価すべきである。
- ◆ 地方小委員会などで、3便益以外の効果についても地域で独自のものを積極的に提示していただきたい。

## ○社会資本整備審議会 道路分科会 関東地方小委員会 (H23. 1. 20)

- ◆ 事業目的に応じた適切な手法により評価を行うことが重要である。
- ◆ 3便益による評価だけでなく、多様な効果の評価手法についても今後工夫する必要がある。

# 今後の検討の論点(案)

---

○ 現状の評価手法に学術的課題があるか？

○ 現状の評価手法に実務的課題があるか？

・例えば、3便益で評価できない便益

- ・緊急医療機関へのアクセス
- ・落石危険の除去による安心の確保
- ・交通量は少ないが連携交流手段の確保 など

○ 今後の評価手法はどんな方向に見直すべきか？

事業の特性に応じた評価を行うため、政策目標評価型事業評価として、

- ① ・「B/C(3便益)により事業効果を確認する手法」の他に、  
・「B/C(3便益)で評価できない様々な事業効果を確認する手法」  
を新たに創設
- ② 事業の特性に応じて、上記いずれかの手法で評価を実施

(注)B/Cによる多様な効果の評価は、計測精度や2重計上のおそれなどの課題が指摘されている。